

1 題材 ねんがじょう

2 目標

- 自分のめあてをもち、相手を思いながら取り組むことができる。
- 文字の形や大きさ、中心に気をつけて、正しい姿勢と用具の持ち方で書くことができる。
- 自分や友達のまとめ書きを見て、よくなったところを見つけることができる。

3 指導計画(全2時間)

第1時 文字の形に気をつけて練習する。

第2時 文字の大きさや中心に気をつけながら練習し、清書する。(本時)

4 指導上の立場

- 第1学年及び第2学年での書写硬筆の指導事項に「姿勢や用具の持ち方を正しくして丁寧に書くこと」があげられている。

本題材は、これまでに学習してきた字形の整え方や用具の使い方に気をつけながら、相手を意識し、心をこめて読みやすくていねいに書くことを目標としている。

1年生の児童は、実生活の中で、年賀状の交換を体験したことのある児童もいるかと思われる。年賀状について話し合う中で、児童は「もらえたらうれしいな」「〇〇さんに書きたいな」という思いをもつであろう。その思いを伝えるためには、相手のことを考えながらていねいに読みやすく書くことが必要である。文字を書くことにもずいぶんと慣れてきたこの時期に、相手に読みやすく伝えるためには、文字の形や大きさ、中心に気をつけることが大切であると感じることができ、実生活に生かしていくことのできる「年賀状」という題材は、学習に有効であると考えた。さらに、まとめとして、葉書に文字を書くことで、書く意欲がより高まるのではないかと思われる。

- 本学級の児童は、書写タイムや書写の授業では、ていねいに書こうとする意識が見られ、練習教具の使い方にも慣れて、楽しく喜んで取り組んでいる。また、文字が上手に書けるようになったり、教師や友達によくなったところを褒めてもらえたりすることをとても喜び、学習の励みとしている。しかし、正しい姿勢や鉛筆の持ち方などがあまり定着していない児童も見られる。書写以外となると、ていねいに書こうとする意識も少ないため、姿勢も崩れやすく文字や文章が乱雑になりがちである。

そこで、相互批評の場を設定することで、自分と友達の伸びを感じ、文字を書くことへの励みとしたい。また、「年賀状を相手に向けて書く」という活動を通して、実生活における文字についても、読みやすくていねいに書くことが大切であるということに気付かせたい。

- 本校の研究テーマ「主体的に学び、基礎・基本を身につける子どもの育成～自らめあてをもち、書く楽しさや進歩した喜びを味わう書写学習～」に迫るために、本時の題材は、次のように学習過程や評価の工夫を行う。

つかむ活動では、葉書にまとめ書きをすることを確認し、年賀状を送る相手を思い浮かべることによって、意欲的に取り組むことができるようにしたい。また、文字の大きさや中心がそろっていない例を提示することで、読みやすい書き方に意識を向けた後、前時のまとめ書きを自己批評することにより、自分なりのめあてをもつことができると考える。

すすめる活動では、清書をする葉書と同じように中心線のみ入っている練習用紙、文字の大きさをそろえやすくするため罫線も加えた練習用紙の2種類を用意する。その2種類の練習用紙から、児童自身が自分のめあてに沿った練習用紙を選び練習をすることで、主体的に学ぶことができると考える。また、「書写体操」をすることで書く意欲を高め、正しい姿勢や用具の持ち方などを確認したい。そして、書いている間も正しい姿勢や用具の持ち方について声をかけたり、児童を称揚したりすることで、意識が持続するようにしたい。

たしかめる活動では、葉書にまとめ書きをすることで、集中して真剣に書くことができるようにしたい。試し書きとまとめ書きを比べ、自己評価・相互評価をすることで、進歩した喜びを味わい、互いによくなったところを認め合うことで、書くことの楽しさやこれからの励みにつながるのではないかと考える。

また、本題材終了後は生活科へとつなげ、宛名や絵などをかき、年賀状を完成させたい。

5 本時案（第2時）

目 標	○ 正しい姿勢と用具の持ち方で、文字の大きさや中心に気をつけてていねいに書くことができる。 ○ 自分や友達のよくなったところを見つけ、伝え合うことができる。			
学 習 活 動	教 師 の 支 援		評価内容	準備物
1 めあても つ。	○ 前時を思い出させ、本時はまとめ書きとして、葉書に「あけましておめでとう」を書くことを知らせる。 ○ 絵を見て、フェルトペンの持ち方と使い方を思い出させることができるようにする。 ○ 受け取る人が喜ぶ文字とはどんな文字かについて触れ、例を提示したり前時のまとめ書きと手本を見比べさせたりすることで、文字の大きさや中心に気をつけることを意識させる。 ○ めあてをより明確にするために範書をする。			フェルトペン ワークシート 持ち方の絵 文字の大きさ・ 中心のそろわな い例の掲示
もじの大きさや中しんにきをつけて、こころをこめてねんがじょうをかこう。				
2 練習する。	○ もっと上手に書きたいところにしるしをつけることで、自分なりのめあてをもつことができるようにする。 ○ めあてをもつことが難しい児童には、教師が助言をする。 ○ 練習用紙の説明をし、自分のめあてに沿った練習ができるようにする。 ・罫線と中心線入り用紙 ・中心線入り用紙 ○ 書写体操をすることで、正しい姿勢やフェルトペンの持ち方を確認してから書くことができるようにする。 ○ 机間指導を行い、意欲の持続を図るようにする。 ・文字の大きさに気をつけて書けていない児童には、罫線と中心線入り用紙を使うように促し、大きさを意識できるように助言する。 ・文字の中心に気をつけて書けていない児童には、手本と自分の中心線のズレを確認させ、中心を意識して書くことができるように助言する。 ・文字の大きさや中心に気をつけて書けているが、文字の形に気をつけて書けていない児童には、前時の字形練習用紙を渡し、練習するように促す。		文字の大き さや中心に 気をつけて 書いている。	練習用紙
3 まとめを する。	○ 気をつけることを確認し、相手を思い浮かべることによって、意欲を高めてから葉書にまとめ書きができるようにする。 ○ 前時と本時のまとめ書きを比べ、よくなったところを見つけてシールを貼り、自己評価をする。 ○ 隣同士で見せ合い、よくなったところにシールを貼り、発表することで、充実感やうまくなった喜びを感じ取ることができるようにする。 ○ ふりかえりをし、本時のまとめとする。		前時と本時 のまとめ書 きを見比べ て、よくな ったところに シールを貼 っている。	葉書 がんばったよシ ール ほめほめシール 教材提示装置